

## 箱根山の火山活動解説資料（令和元年 10 月）

気象庁地震火山部  
火山監視・警報センター

2019 年 5 月に増加した火山性地震は、9 月に入り減少し、2019 年 5 月の地震活動活発化前の状態となっています。また地殻変動観測では、山体の膨張を示すと考えられる基線の伸びは、8 月下旬頃から鈍化し、ほぼ停滞しました。以上のことから、大涌谷周辺の想定火口域では、噴火の可能性は低くなったと判断し、10 月 7 日 10 時 00 分に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを 2（火口周辺規制）から 1（活火山であることに留意）へ引き下げました。

ただし、大涌谷周辺の想定火口域では活発な噴気活動が続いていますので、火山灰等の突発的な噴出現象に注意する必要があります。

## 活動概況

- ・噴気などの表面現象の状況（図 3～5、図 6 - 、図 7 - ）  
大涌谷の火口や噴気孔及び温泉供給施設から引き続き噴気が勢いよく噴出しています。大涌谷の噴気の高さは概ね 400m 以下で経過しており、状況に変化はありません。  
宮城野監視カメラ（大涌谷の東北東約 3 km）による観測では、早雲地獄の噴気は少ない状態が続いており、噴気の高さは 100m 以下で経過しています。
- ・地震や微動の発生状況（図 6 - 、図 7 - 、図 8）  
火山性地震の回数は、10 月に 17 回と前月（9 月 6 回）よりやや増加しましたが、少ない状態です。震源は主に駒ヶ岳付近の深さ 3～7 km や芦ノ湖西岸のごく浅い所から深さ 2 km に分布しました。浅い低周波地震や火山性微動は発生していません。
- ・地殻変動の状況（図 2、図 6 - ~ 、図 7 - ~ 、図 9）  
大涌谷の北西約 1 km の台ヶ岳南観測点の傾斜計で、3 月中旬頃からみられていた大涌谷方向が隆起する変化は、9 月には停滞し、3 月中旬以前の状態に戻ったと考えられます。  
GNSS 連続観測で、3 月中旬頃からみられていた箱根山を挟む基線の伸びは、8 月下旬頃から鈍化し、10 月にはほぼ停滞しました。これはマグマからの火山ガスや熱水等の火山性流体の流入による山体深部の膨張がほぼ停止したことを示していると考えられます。また、火山性流体による山体浅部の膨張を示していると考えられる大涌谷周辺の短い基線の伸びも、8 月下旬頃から鈍化し、10 月にはほぼ停滞しました。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（[https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)）でも閲覧することができます。

次回の火山活動解説資料（令和元年 11 月分）は令和元年 12 月 9 日に発表する予定です。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警戒等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東京大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、神奈川県温泉地学研究所及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ（標高）』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平 29 情使、第 798 号）。

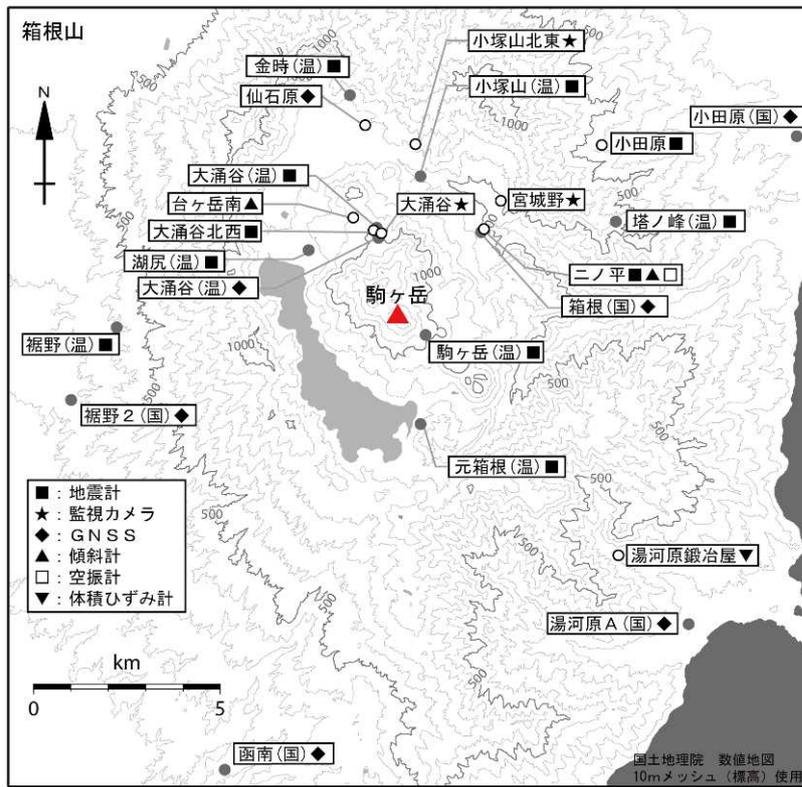


図1 箱根山 観測点配置図

小さな白丸( )は気象庁、小さな黒丸( )は気象庁以外の観測点を示しています。  
 (国): 国土地理院、(温): 神奈川県温泉地学研究所

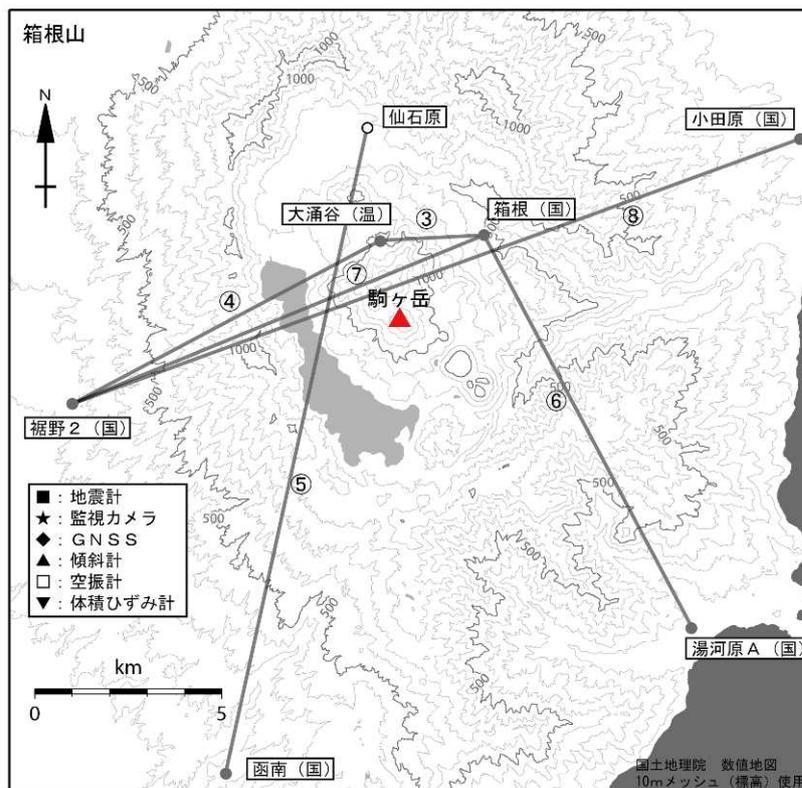


図2 箱根山 GNSS連続観測点配置図

小さな白丸( )は気象庁、小さな黒丸( )は気象庁以外の観測点を示しています。  
 (国): 国土地理院、(温): 神奈川県温泉地学研究所  
 GNSS基線 ~ は図6及び図7の ~ に対応しています。



図3 箱根山 大涌谷の状況  
 （10月26日、大涌谷監視カメラによる）  
 火口や噴気孔、またその周辺の大涌谷温泉供給施設から引き続き噴気が勢いよく噴出しています。



図4 箱根山 早雲地獄の状況  
 （10月2日、宮城野監視カメラによる）  
 白円内は早雲地獄からの噴気の状況。気象庁の宮城野監視カメラでは、大涌谷からの噴気（黄矢印）は高さ概ね 100m以上の場合に観測されます。



図5 箱根山 噴気場所（大涌谷・早雲地獄）位置図  
 赤丸及び赤矢印は宮城野監視カメラ設置場所及びその撮影方向

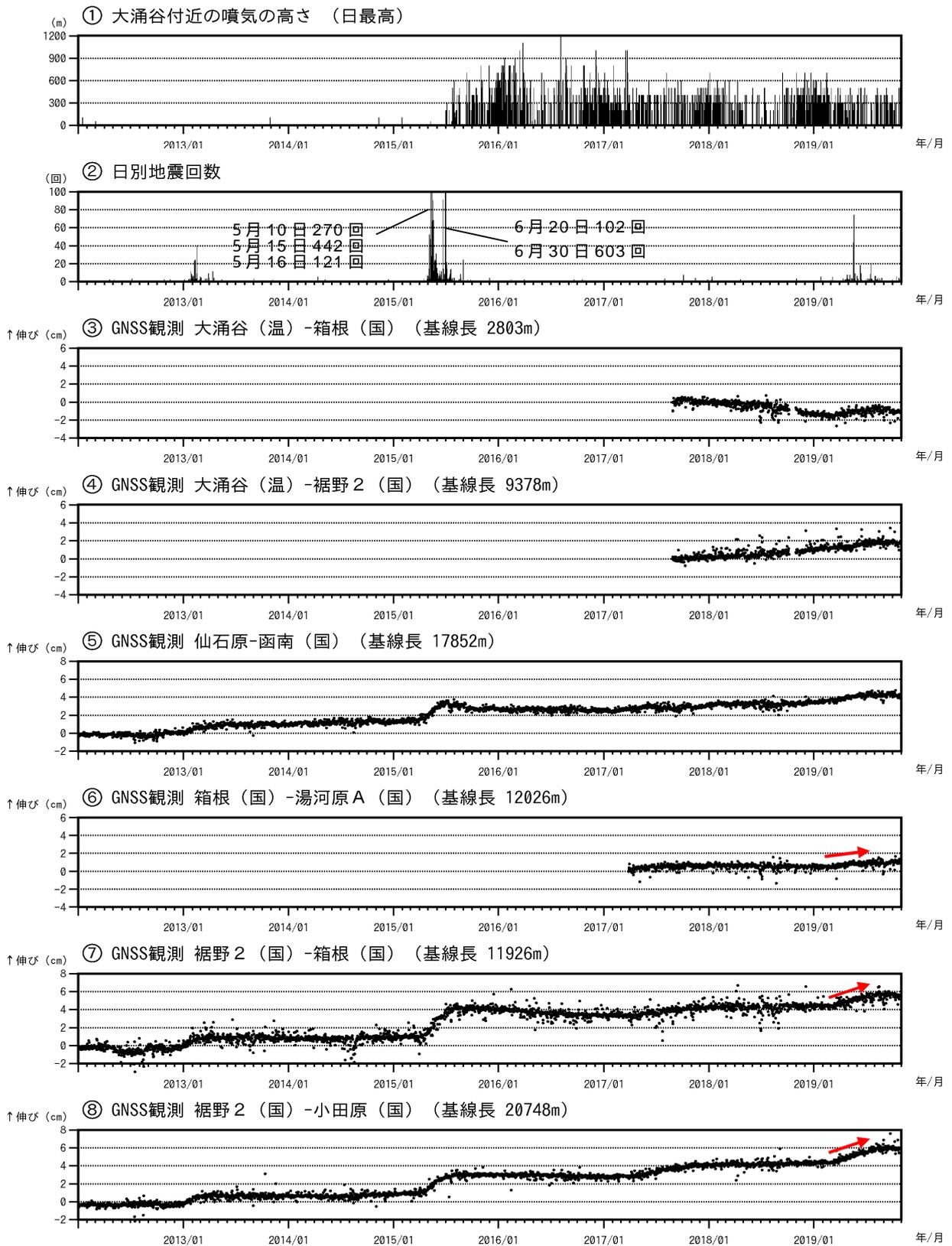


図6 箱根山 火山活動経過図（2012年1月1日～2019年10月31日）

(国)：国土地理院 ～ は図2のGNSS基線 ～ に対応。空白部分は欠測を示します。

- ・噴気活動に特段の変化は認められません。
- ・火山性地震は、10月には17回と少ない状態でした。
- ・GNSS連続観測では、山体深部の膨張を示していると考えられる箱根山を挟む基線（ ～ ）で、3月中旬頃から伸び（赤矢印）がみられましたが、8月下旬頃から鈍化し、10月はほぼ停滞しました。

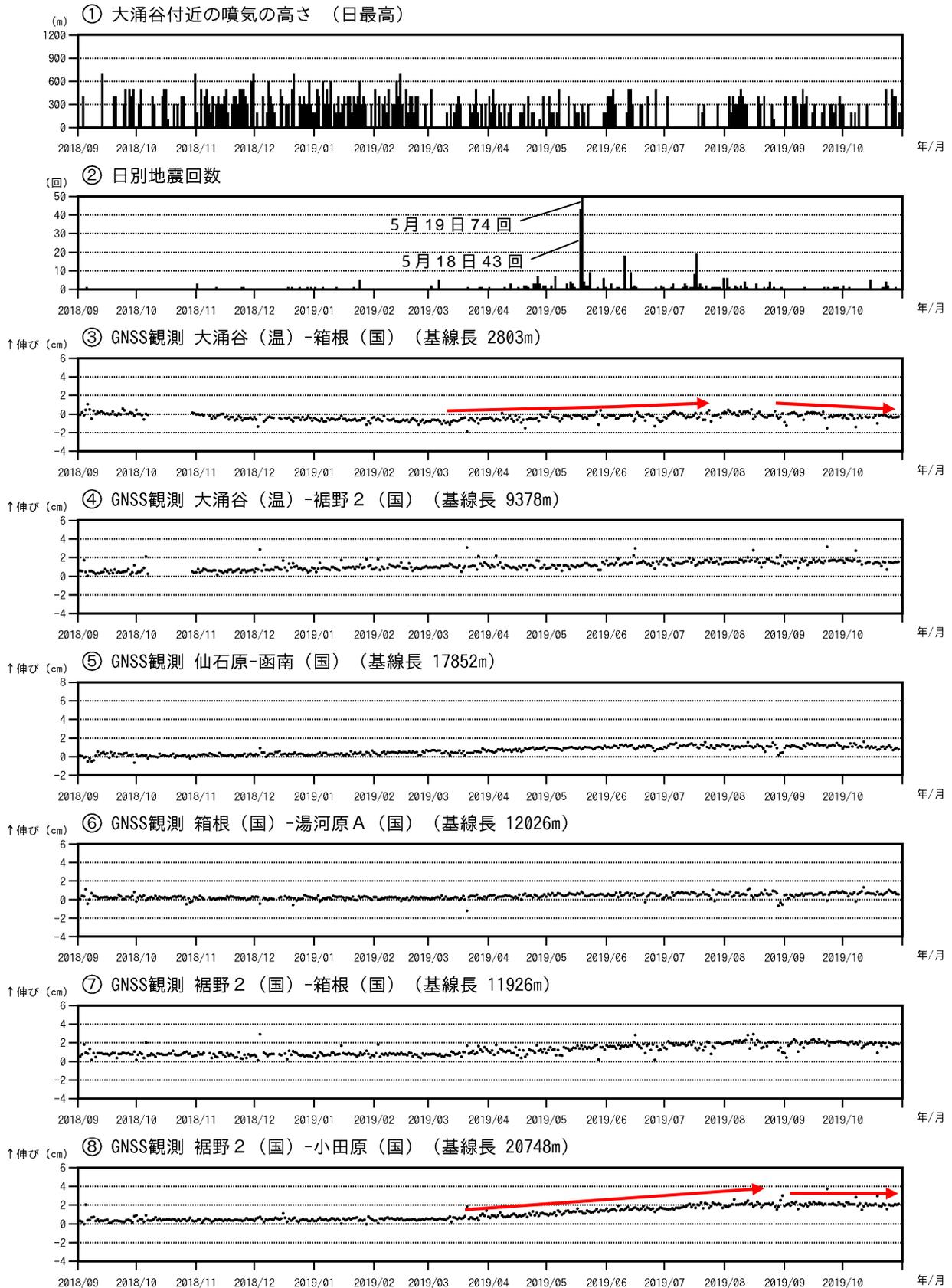


図7 箱根山 火山活動経過図（2018年9月1日～2019年10月31日）

（国）：国土地理院 ～ は図2のGNSS基線 ～ に対応。空白部分は欠測を示します。

- ・噴気活動に特段の変化は認められません。
- ・火山性地震は、10月には17回と少ない状態でした。
- ・GNSS連続観測で、3月中旬頃からみられていた箱根山を挟む基線の伸びは、8月下旬頃から鈍化し10月はほぼ停滞しました。また、山体浅部の膨張を示していると考えられる大涌谷周辺の短い基線についても8月下旬頃から鈍化し、10月はほぼ停滞しました。

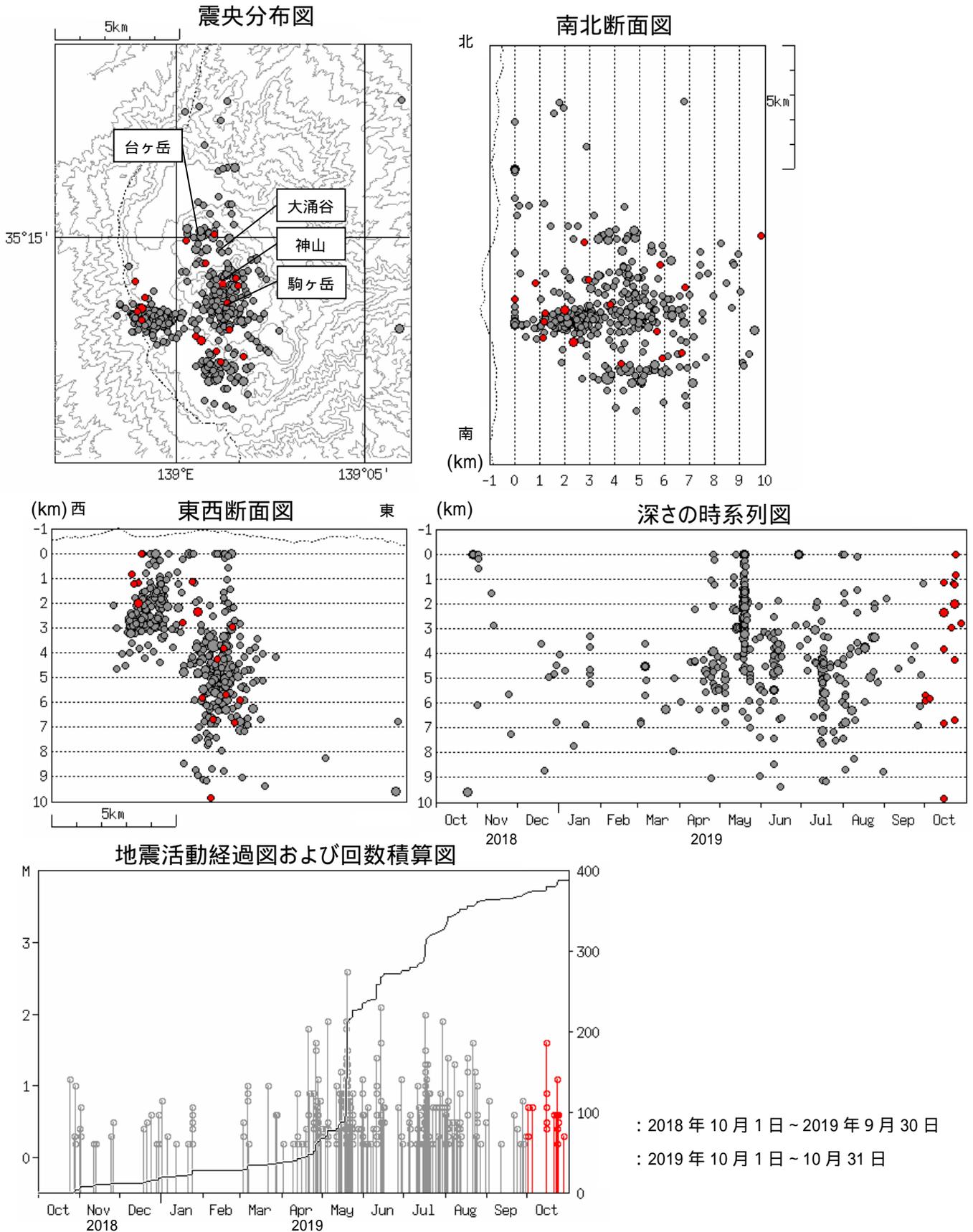


図8 箱根山 広域地震観測網による山体周辺の震源分布図(2018年10月1日～2019年10月31日)  
 M (マグニチュード) は地震の規模を表し、M0.2以上の地震を表示しています。  
 広域地震観測網により震源決定したもので、深さは全て海面以下として決定しています。  
 図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。  
 ・震源は主に駒ヶ岳付近の深さ3～7kmや芦ノ湖西岸のごく浅い所から深さ2kmに分布しました。

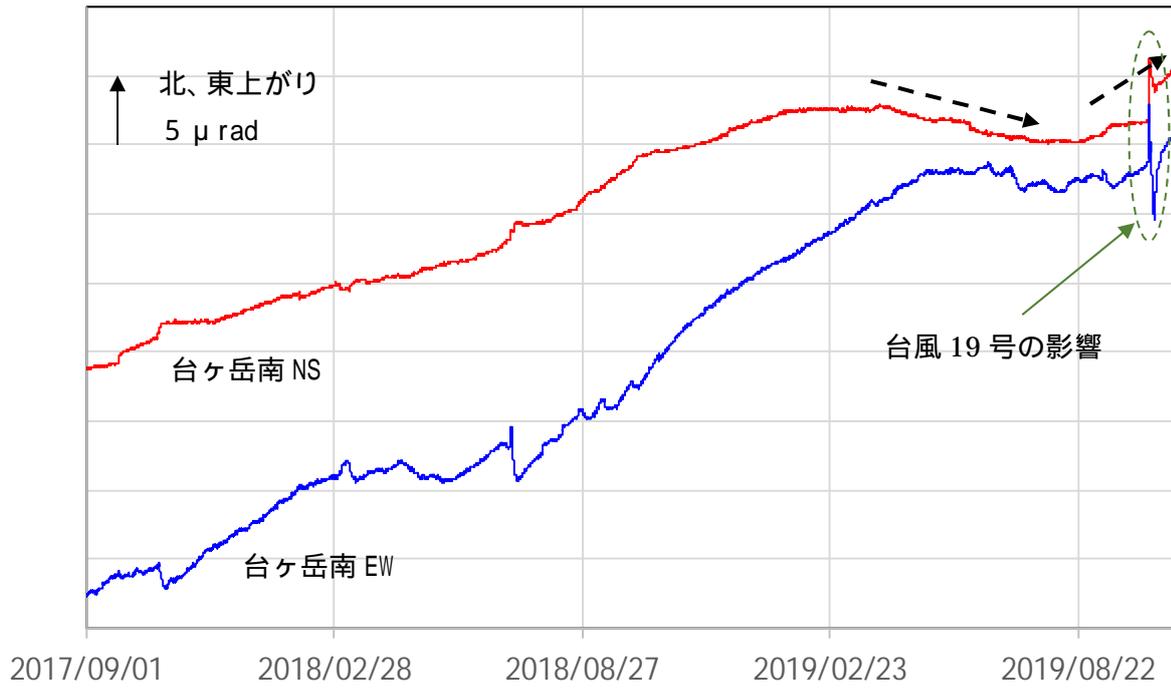


図9 箱根山 台ヶ岳南観測点における傾斜データ（2017年9月1日～2019年10月31日）

- ・大涌谷の北西約1 kmの台ヶ岳南観測点の傾斜計で、3月中旬頃から認められていた大涌谷方向が隆起する変化は、9月には停滞し、3月中旬以前の状態に戻りました（黒矢印）。